



令和元年度

健康保険組合 全国大会開催！

迫る2022年危機！今こそ改革断行を！！

現役世代を守り、国民皆保険を支えるために全国の健康保険組合が、令和元年11月22日、東京国際フォーラムに参集し、「令和元年度健康保険組合全国大会」が開催されました。当日は約4,000人の健保組合関係者が参集し、「健康」「安心」そして皆保険制度を守り抜くため、改革の早期実現を求める決議を満場一致で採択しました。

大会で決議された内容の要旨と採択された4項目に関して皆さまにご報告いたします。

我が国の皆保険制度は、これまで国民の健康増進と長寿社会の実現に貢献してきました。その一方で、わが国の国民医療費は急速な高齢化や医療の高度化等により増加の一途を辿っており、また、支え手の現役世代の減少と共に制度の存続が危ぶまれる状況にあります。特に団塊の世代が75歳に到達し始める2022年以降、高齢者医療費の増大に伴い、制度全体の財政悪化がさらに急速に進むと見込まれます。

この窮状を乗り越え、現役世代を守り、皆保険制度を将来世代へつなぐためには、「高齢者医療費の負担構造改革」を中心とした医療保険制度の抜本的改革が不可欠です。そのためには、高齢者にも応分の負担を求めると共に、公費の投入をするなど、現役世代の負担に一定の歯止めをかけるべきです。

また、制度の持続性確保のためには、個人が負担しきれない大きなリスクを保証しつつ、「保険給付範囲の見直し」や「薬剤処方見直し」を行うなど、医療費適正化対策を着実に実行し、医療費全体の伸びを抑制することが欠かせません。

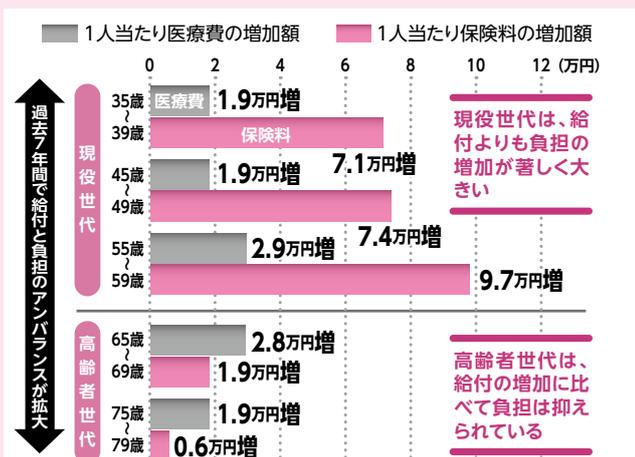
健康保険組合は、これまで労使と一体になって加入者の実態に沿ったきめ細やかな保健事業を展開し、健康づくり・疾病予防等に取り組んできました。「人生100年時代」といわれる今、加入者の健康増進を通じて、健康寿命の延伸につながる取り組みにも貢献できる健康保険組合の役割はより一層高まっています。これからも健康保険組合は、国民の安心と健康の基盤である皆保険制度を中核となって支え続けていく決意です。

目前に迫る“2022年危機”を乗り越えるため、改革の断行を求め、我々健康保険組合は次の事項について組織の総意をもってここに決議します。

- 一、皆保険の維持に向けて、まずは高齢者の原則2割負担の実現
- 一、必要な公費の拡充。現役世代の負担増に歯止め
- 一、保険給付範囲の見直しによる医療費の適正化
- 一、人生100年時代。健康寿命延伸に資する保健事業の推進

世代間の給付と負担のアンバランスの是正を！

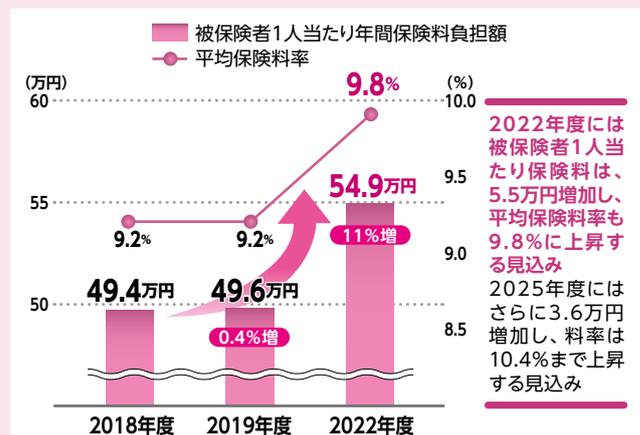
2009年度から2016年度までの
年齢別1人当たり医療費・保険料の増加額



(厚生労働省資料を参考に健保連で作成)

現役世代の負担に歯止めを！

1人当たり年間保険料と保険料率の推移



(2018年度は決算見込み、2019年度は予算早期集計、2022年度は健保連推計による)